

琉球大学連携講座



北中城村のまちづくりを考える

農を活かした健康・福祉の里づくりに向けた推進事業



農林水産課

羽根川 智樹

【北中城村が抱える課題】



- ① 少子高齢化への対応、健康長寿のまちづくり
- ② 防災や災害への備えと、自助・公助の確立
- ③ 循環型・低炭素など環境問題への対応
- ④ 産業振興と就業環境の創出
- ⑤ 交通利便性向上、交通機能の拡充
- ⑥ 住民主体のまちづくりへの展開
- ⑦ 地域の自立と活力あるまちづくり

【基本目標】



課題に対応するため、北中城村の将来像 “平和で人と
緑が輝く 健康長寿と文化のむら きたなかぐすく” の
実現に向け、北中城村における「まち・ひと・しごと創造」
を推進していく



『農を活かした健康・福祉の里づくり推進事業』

【事業の全体像】

1 背景

村の活性化の方針として、「『長寿の村』という特徴を活かした
地域ブランドを形成」及び「『農・食・福・健・観』連携による健康
長寿の6次産業化とブランド形成」の考え方により、生きがい・
雇用の創出、長寿の秘訣である「食」「農」を活用した観光の
推進等の取組みを進める

2 事業目的及び方針



持続可能な北中城みらいづくり

＜活発な地域社会・産業の創出＞

- ・ 村民みずからが中心となり、賑わいのある地域社会と活力に満ちた産業（農業・観光）を持続します。

＜自立した村づくり＞

- ・ 地域の雇用を生み出しながら、人・もの（食・農・エネルギー）の地産地消を強力に進め、“何が起きても負けない農と住の調和ある安全で安心した暮らしのできる村”を実現します。

＜持続可能なエネルギーインフラの構築＞

- ・ 輝ける北中城の未来を支え、次世代に引き継いでいくために、エネルギーインフラを村全体でつくります。

3 事業テーマ



「農住・農福・食農・農観」連携による健康・福祉の里づくり

- ・ 農を中心として、食・福祉・健康・観光事業が連携し、村全体の活性化を図ります。
- ・ 本事業の推進の際には地元企業や地域自治体等は連携して取組みを進めます。
- ・ 上記テーマを基に農家レストラン、農産物直売所、医療・福祉施設、滞在型市民農園、バイオガス発電施設、優良田園住宅などを段階的に整備実施してまいります。
- ・ 各施設が連動して「農を活かした健康・福祉」の里を展開し、持続可能な北中城の未来へとつながる取組みを行います。

農を活かした健康・福祉の里づくりに向けた推進事業業

全体概要説明

【北中城村 農を活かした健康・福祉の里づくりに向けた推進事業】



事業目的 「北中城村みらいづくり」

“何が起きても負けない農と住の調和ある安全で安心な暮らしのできる村”

(第一段階整備)

バイオガス発電・ＩＣＴ太陽光型水耕栽培施設・バイオスティミラント製造施設
ゼロウェイストセンター・学童農園・圃場・管理ハウス

(第二段階整備)

食品加工施設・農産物直売所・農家カフェ・農産物展示ハウス
研修施設・管理事務所・駐車場

(第三段階整備)

医療及び健康増進施設

(第四段階整備)

市民農園・福祉農園・滞在型農園および自己活用農園

(第五段階整備)

グリーンツーリズム施設（グランピング施設など）

(第六段階整備)

優良田園住宅



三育小学校

第一段階

第二段階

第三段階





■ 第一段階整備 (バイオガス発電・I C T太陽光型水耕栽培・バイオスティミラント施設・ゼロウェイストセンターなど)



■ 第一段階整備 (バイオガス発電・I C T太陽光型水耕栽培・バイオスティミラント施設・ゼロウェイストセンターなど)



■第一段階整備（バイオガス発電・I C T太陽光型水耕栽培・バイオスティミラント施設・ゼロウェイストセンターなど）



■第一段階整備（バイオガス発電・I C T太陽光型水耕栽培・バイオスティミラント施設・ゼロウェイストセンターなど）

バイオガス発電

イオンモール沖縄ライカム様、村給食センター様、三育小学校様などの村内事業者様から、再生可能資源（生ごみ）を回収しバイオガス発電（メタン発酵）を実施いたします。発電電力は第一、第二及び第三整備事業で活用し緊急時の予備電力としても使用予定です。

I C T太陽光型水耕栽培施設

バイオガス発電より電力や堆肥及び液肥などを得ながら温度及び湿度や水管理は自動で、行える最新でローコストな栽培を可能にすると共に太陽光（自然光）を取り入れることで、停電発生時にはバイオガス電力を100%、近隣施設に供給できるシステムです。合わせてEM技術を活用することで、無農薬無化学肥料で栽培できるモデル施設です。

ゼロウェイストセンター

バイオガス施設の課題である消化液（汚泥）をリサイクル水などにする、ゴミゼロを実現する施設です。

バイオスティミラント施設

バイオガス発電より電力とゼロウェイストセンターでリサイクルされた消化液を得て、有機農業に必要な農業資材（堆肥）を製造する施設です。

圃場・学童農園

ゼロウェイストセンターとバイオスティミラント施設より、堆肥および液肥や水を得て、三育小学校様が安全で安心して有機農業が可能な農場を整備します。



■第二段階整備（食品加工施設・農産物直売所・農家カフェ・農産物展示ハウス・研修施設・管理事務所・駐車場など）



第二段階

■第二段階整備（食品加工施設・農産物直売所・農家カフェ・農産物展示ハウス・研修施設・管理事務所・駐車場など）

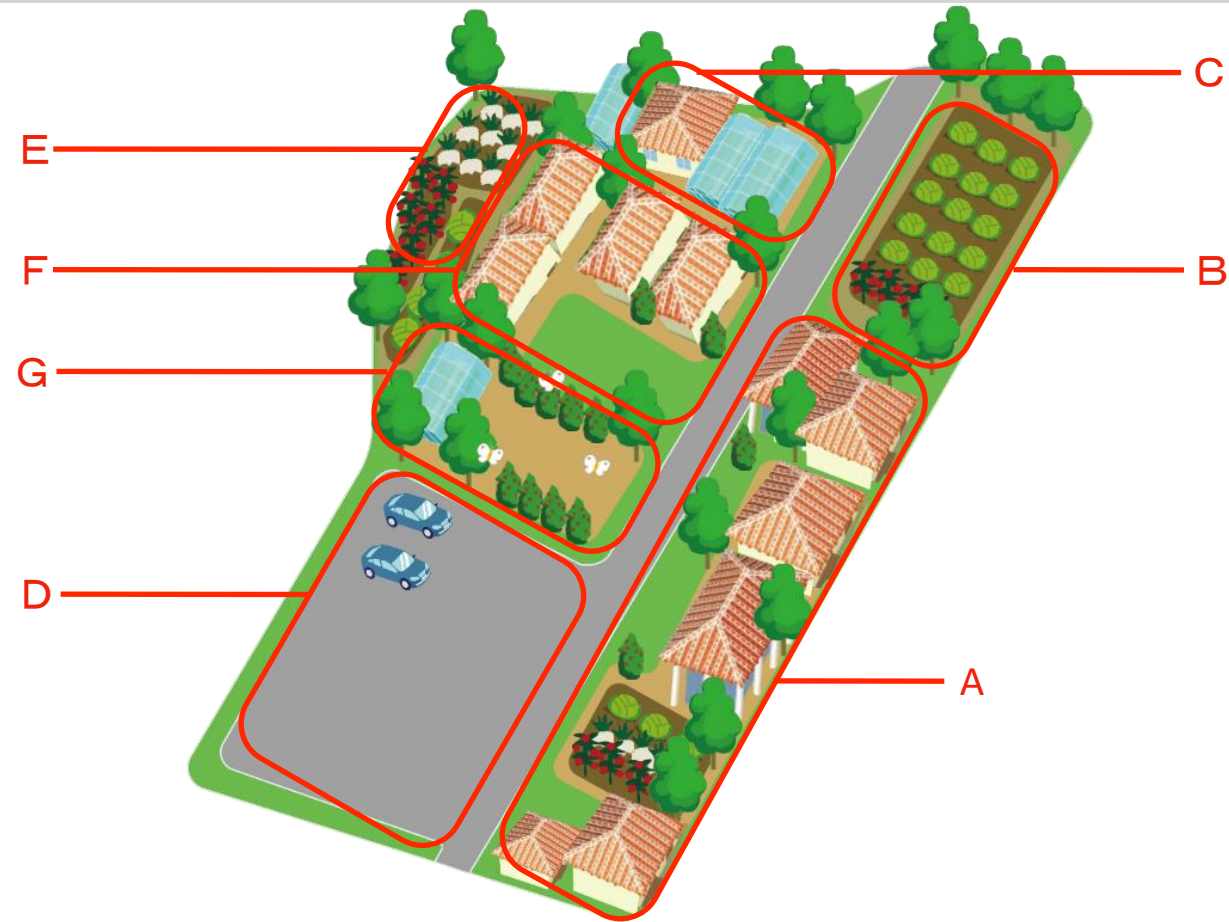


第二段階

■第二段階整備（食品加工施設・農産物直売所・農家カフェ・農産物展示ハウス・研修施設・管理事務所・駐車場など）



■第二段階整備（食品加工施設・農産物直売所・農家カフェ・農産物展示ハウス・研修施設・管理事務所・駐車場など）



施設名		計画規模	概要（計画）
A	ファーマーズ・スクエア	1 5 0 坪（5 0 0 m ² ）	食品加工施設・農産物直売所・カフェレストラン
B	有機農業展示生産圃場（屋外オーガニックパーク）	3 0 0 坪（9 9 0 m ² ）	屋外圃場
C	有機農業展示生産ハウス（屋内オーガニックパーク）	7 0 坪（2 1 0 m ² ）	ハウス園芸施設（1 棟）
D	駐車場	3 0 0 坪（9 9 0 m ² ）	幅広普通車 4 0 台（障害者用含む）・大型バス 2 台
E	植物エリア	4 0 0 坪（1 3 2 0 m ² ）	花壇など
F	アグリカルチャーセンター	7 0 坪（2 1 0 m ² ）	管理棟（事務所）・研修施設
G	ふれあい広場	1 0 0 坪（3 3 0 m ² ）	屋外広場（例：芝生など）
	調整地	1 0 0 0 坪（3 3 0 0 m ² ）	歩道・隣接境界調整地
	施設規模	2 3 9 0 坪（7 8 8 7 m ² ）	

■第二段階整備（食品加工施設・農産物直売所・農家カフェ・農産物展示ハウス・研修施設・管理事務所・駐車場など）



「A」ファーマーズ・スクエア
農産物直売所と農家カフェのイメージ



「A」ファーマーズ・スクエア
食品加工施設と加工品のイメージ



「BとF」オーガニックパークとアグリセンター
利用者が気軽に交流出来る場所



「EとG」ふれあい広場と植物エリア
フリーマーケットなど村民の活用場所





医食同源の核となる医療・福祉施設の整備を実施し、医療・福祉施設拠点として活用

第一段階整備におけるバイオガス発電施設からの非常時電源供給を受けるため、第一段階整備区域に隣接した土地に整備

第四段階整備では福祉農園の実施を検討していることから、第三・第四段階整備事業者同士の連携した取組みを検討



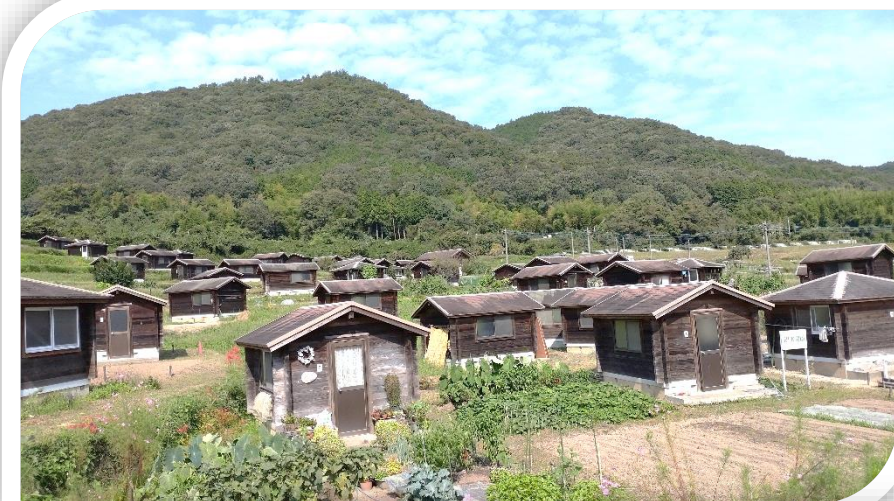
医療福祉体制の構築と共に農を活かした健康増進を進める

(第四段階整備) 市民農園・福祉農園・滞在型農園および自己活用農園



(第五段階整備) グリーンツーリズム施設（グランピング施設など）

(第六段階整備) 優良田園住宅



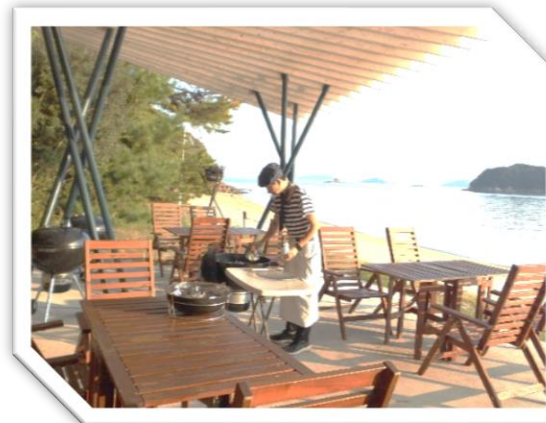
滞在型市民農園

1993年に長野県と兵庫県に開設して依頼、それらをモデルとして全国各地に70ヶ所近く開設。

都道府県別にみると、長野県、兵庫県が多い。利用形態では、大都市圏から100km圏内に立地では、家族主体で週末利用、200km圏内では夫婦での長期滞在の傾向。

年代別では50代、60代のシニア層が多い。

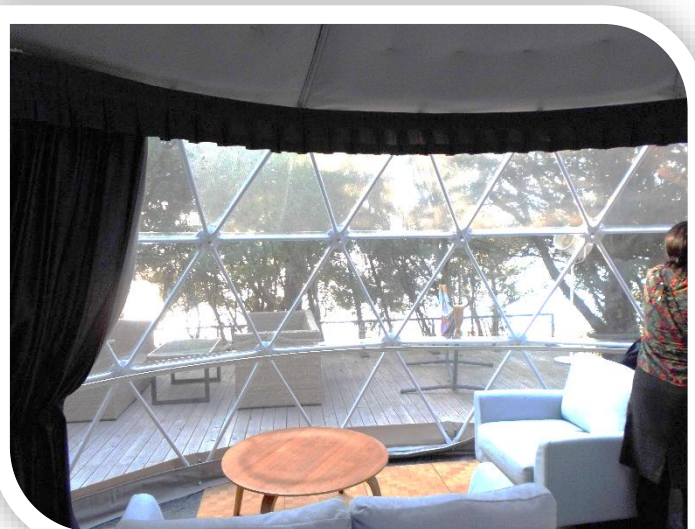
利用の際は地域住民との積極的な交流、年間プログラムへの参加、共同作業への参加、利用規程の厳守などをお願いしている。



グランピング

「グラマラス」と「キャンピング」の造語。「大自然を感じる」「ラグジュアリーな空間とサービスが提供」される1ランク上のアウトドア体験。

このコロナ禍をきっかけに海外旅行に行けない富裕層や、キャンプ初心者の女性などに人気を博しており、非接触な部分が多いのも安心して宿泊できる要素のひとつになっている。





優良田園住宅

都市近郊その他の良好な自然的環境を形成している地域に所在する一戸建ての住宅で、次の基準を満たすもの。

敷地面積 300m^2 以上、建ぺい率30%以下、容積率50%以下、3階建て以下。

第四段階整備（市民農園・福祉農園・滞在型農園および自己活用農園）



医療施設の患者が滞在しながら
通院・リハビリができるような
整備

第五段階整備（グリーンツーリズム施設（グランピング施設など））



滞在型農園リゾート施設「グラ
ンピング（テント型キャンプ施
設）」の導入を検討

第六段階整備（優良田園住宅）



東端エリアと西端エリアとして
優良田園住宅制度を活用した戸
建て住宅の建設

（画像はイメージです）

「農を活かした健康・福祉の里づくり事業」 地域住民との繋がりをいかに創出するか？

考えられる課題

- ・ 高齢者の多い荻道、大城地区を含め、村内各地の交通弱者に対してどのような移動手段が考えられるのか。
- ・ 第一段階～第六段階のそれぞれの整備区域や、世界遺産・中城城址、県営中城公園、県総合運動公園などの近隣地域をどのように連携させて活用すれば、最大限の相乗効果を得られるのか。
- ・ この事業のキャッチフレーズ、当該地区のポップなネーミングはないか。
例) ・ みらいタウンきたなか ・ ドリームファーマーズアイランド



ご清聴ありがとうございました。



An Earth Saving Revolution